

# 資料館だより

## 目次

- 特集 … (2)
- 開催した企画展 … (3)
- 開催したイベント … (4)
- インフォメーション … (4)

## 特集

# 北条政子と伊豆の国

二〇二二年大河ドラマ『鎌倉殿の13人』の放送を契機として、北条義時をはじめとした北条氏が一年間話題になりました。当市は北条義時誕生の地であり、市内のゆかりの地にはありがたいことに大勢の観光客の方がお越しになっています。

さて、義時の生誕の地ということはその姉である政子の生誕の地でもあります。

今回は、伊豆の国市内に点在する、北条政子に関わる場所についてご紹介していきます。



蛭ヶ島公園

## 北条政子の生涯

まず、北条政子の生涯を簡単に振り返ってみましょう。

政子は、保元二年（一一五七）、伊豆国の豪族北条時政の娘として誕生します。兄弟は、時政の後妻牧の方の子も含めると宗時、義時、阿波局、時房、政憲などをはじめ、名前が伝わっていない女性たちも合わせて十人以上いたようです。

政子が二十歳の頃、伊豆に流罪にされていた源頼朝と出会います。治承二年（一一七八）頃に長女の大姫が誕生していることから、結婚したのはこの頃だと考えられます。

治承四年（一一八〇）八月十七日、頼朝たちが旗挙げとして山木兼隆を襲撃すると、その間、政子は伊豆山に身を隠すことになりました。頼朝たちは石橋山の敗戦、安房への脱出を経て約二か月後に鎌倉へ入ります。それを追いかけるように、政子も鎌倉に入ります。鎌倉での生活が始まってから一年ほど経った頃、寿永元年（一一八二）に長男の万寿（後の二代将軍頼家）が誕生します。この頃、龜の前事件が起きます。政子が万寿を妊娠中、頼朝はひそかに龜の前と通じており、それに激怒した政子をはじめ北条氏の人々がうわなり打ち（前妻が親しい人々と共に意趣晴らしのために後妻の家財などを破壊すること。主に平安時代から江戸時代前頃にあった風習。）

期から室町時代にかけての尼寺の跡が重なっています。

北条氏の館があった平安時代後期から鎌倉時代初期頃は出土遺物の量が最も多く、かつ当時貴重だったものが多く発見されています。ちょうど政子の

父時政から政子の甥にあたる三代執権の泰時の頃です。それ以降は出土遺物が急激に減少するため、泰時が執権を務めた頃に鎌倉へ拠点に移ったと考えられます。



史跡北条氏邸跡（円成寺跡）

### ②北条政子産湯の井戸

現在史跡として整備されている北条氏邸跡の範囲より二百メートルほど東側に、「北条政子産湯の井戸」があります。



北条政子産湯の井戸

石を組んで造られたこの井戸には、政子が誕生した際、産湯をつかったという伝承があります。

を行うという事件です。そんな中、文治二年（一一八六）、次女の三幡が誕生します。文治五年（一一八九）の奥州合戦では頼朝をはじめとした大勢の武士たちが鎌倉を留守にしている中、政子は戦勝祈願のための百度詣を行います。

建久三年（一一九二）、次男の千幡（後の三代将軍実朝）が誕生します。このころから長女大姫が体調を崩しており、政子は娘のために二所詣をするなど、娘思いの母親の姿を見せています。

建久六年（一一九五）、頼朝・政子夫妻と長女大姫、長男頼家が上洛します。このとき政子は長女と共に、後白河法皇の寵愛を受けて権力を持つていた丹後局と会見をします。

建久十年（一一九九）、頼朝が急逝し、政子は出家して尼となります。それから長男頼家が二代将軍となりますが、元久元年（一二〇四）に頼家は修禅寺で暗殺されてしまいます。

次男実朝が三代将軍になり、牧氏事件で父時政が失脚します。政子は未だ跡継ぎのいない実朝のために、後継者探しに奔走します。建保六年（一二一八）には実朝の後継者を打診するため上洛し、藤原兼子との会合で三位を叙位されますが、その翌年、実朝が鶴岡八幡宮で暗殺されてしまいます。権力の支柱を失った鎌倉は政子を政治の表舞台に据えるようになりません。

承久三年（一二二二）の承久の乱では亡き頼朝の妻として、鎌倉武士たちに参戦を呼びかける伝承があったことがうかがえます。

### ③蛭ヶ島公園

頼朝流罪の地として知られる蛭ヶ島公園には、頼朝と政子の像があります。守山から北東に一・三キロメートルほど行ったこの場所はその昔、沼地に浮かぶ小島のような場所と言います。頼朝は流罪が決まった十四歳の時から三十四歳で挙兵するまでの約二十年間を伊豆で暮しました。その間には、葦山の蛭ヶ島で妻の政子と共に富士山を眺める時期があったかもしれません。

ちなみに、頼朝は罪人の身ではありませんが、比較的自由な暮らしをしていたようです。読経をし慎ましく生活するかたわら、狩りや恋愛などを楽しんでいました。その中で政子と出会ったのでしょうか。大河ドラマでも取り上げられたように、伊東氏の娘八重姫との悲恋の伝説はこの時期の出来事とされます。

政子に関する場所は、伊豆の国市の周辺市町村にもいくつかあります。歴史の中では「悪女」とも評される彼女ですが、伝説・伝承を現在まで大切に受け継いできた地元の人々にしてみれば、鎌倉時代の基礎を作り上げたヒロインだったのかもしれない。

掛け、義時らと協力して朝廷軍を撃破します。承久の乱から三年後の貞応三年（一二二四）、弟であり執権の義時が亡くなります。そして政子は、義時の跡継ぎ問題を契機に発生した伊賀氏事件を落着かせた後に体調を崩し、嘉禄元年（一二二五）に六十九歳で亡くなります。

### コラム

政子と頼朝の仲を表す有名なエピソードとして、「山木兼隆と結婚させられそうになった政子が、結婚を嫌がって館を抜け出し、伊豆山で頼朝と落ちあった」というものがあります。これは創作の可能性が高いです。なぜなら、山木兼隆が伊豆国山木に流されたのは治承三年（一一七九）ですが、政子と頼朝が親密な仲になり長女大姫が誕生したのはそれより前の治承二年（一一七八）頃であり、時期に矛盾が生じるためです。

### 政子に関する場所

伊豆の国市内には政子や北条氏に関する場所がいくつか残っています。

①史跡北条氏邸跡（円成寺跡）  
伊豆の国市の守山のふもとにある史跡北条氏邸跡（円成寺跡）。この遺跡は、平安時代後期から鎌倉時代初期の邸宅跡と、鎌倉時代後

### 開催された企画展

#### 朗読のゆうべ「八重姫哀歌」展

令和四年五月一日～七月三日

企画展  
朗読の『八重姫哀歌』展  
ゆうべ  
令和四年 5.1(日)～7.3(日)

今年3月に刊行された朗読のゆうべ『八重姫哀歌』にて使用された、伊豆市郷土資料館蔵の伊豆の国市郷土資料館蔵の複製品13点を展示します。八重姫と頼朝の出会いから別れの最期まで、はさみ一本で切り上げられた物語を二重に伝えます。

伊豆の国市郷土資料館  
場所 〒419-2221 静岡県伊豆の国市三原530-4 学芸館2階  
アクセス 車：伊豆市中央バス「北条山」より徒歩  
電車：伊豆箱根鉄道駿豆線「伊豆駅」下車、徒歩7分  
TEL/FAX 0559-79-9028  
開館時間 9:00～16:30 入館無料  
休館日 毎月第1日、5/5、5/27、6/19～6/24

#### 『郷土資料館開館五十五周年 郷土資料館のあゆみ』

令和四年七月二十二日～十月九日

郷土資料館開館55周年  
企画展  
伊豆の国市郷土資料館のあゆみ

令和四年 7/22(金)～10/9(日)

伊豆の国市郷土資料館  
〒419-2221 静岡県伊豆の国市三原530-4 学芸館2階  
TEL/FAX 0559-79-9028  
開館時間 9:00～16:30 入館無料  
休館日 毎月第1日、5/5、5/27、6/19～6/24

# 令和4年度上半期 開催したイベント

## ⑨ 縄文ポシエットを作りました！

ワークシヨップ「縄文ポシエットを作ってみよう！」を伊豆の国生涯学習課主催の市内小学生向け体験教室「あいキッズ」で開催しました。縄文ポシエットは本来、木の皮などで編まれたものですが、ワークシヨップでは紙テープを用いて「網代編み」という編み方で小さなこを編みました。参加者は苦戦しながらもこを編み上げていました。

## ⑩ 火起こし体験を今年も実施しました！

近隣の小学校を対象に、火起こし体験教室が今年も行われました。地元有志による「火起こし隊」の協力のもと、マイギリ式火起こし器や乾燥させたヨモギ、シユロの皮などを用いて摩擦熱で火を起こします。

当館の火起こし体験教室は発足から今年で三十周年を迎えました。これからも火起こしの技術を、次世代に伝え続けていきます。

## ⑪ 夏のワークシヨップを開催しました！

当館では八月にワークシヨップ「はにわづくり教室」「まがたま勾玉づくりの教室」を開催しました。子どもから大人まで大勢の方が参加しました。参加者は、市内から出土したはにわや勾玉の実物を見学してから制作に取り組み、試行錯誤しながら完成を目指していました。



(左上) ワークシヨップの様子  
(左下) 勾玉の完成品

(右上) 縄文ポシエットの完成品  
(右下) ミニはにわの完成品

## インフォメーション

**施設案内**

開館時間 午前九時～午後四時三〇分  
 休館日 月曜日 毎月最後の金曜日  
 年末年始（十二月二十八日～一月三日）  
 六月最終週の館内整理期間  
 （図書館休館日に準じる）

所在地 静岡県伊豆の国市三福二五三-一  
 （伊豆の国市立中央図書館二階）

料金 無料

電話 〇五五八・七六・五六七八（FAX同じ）

## 周辺地図



伊豆の国市郷土資料館 資料館だより vol.17  
 編集発行：伊豆の国市郷土資料館 令和四年十二月二十日  
 印刷：いさぶ印刷工業株式会社